

アダプティブBC宣言

2ページ要約(2018年)

定義:

アダプティブBC(適応型事業継続)は、人や場所、リソースが予期せず使用不能になった後の継続的なサービス提供を重視し、組織の復旧能力を継続的に改善するためのアプローチである。

推進ドライバー:

過去15年間のテクノロジーや組織慣行、グローバルビジネスにおける目覚ましい進歩にもかかわらず、伝統的なBC手法は固定化が進んでいる。組織的な準備の改善よりもコンプライアンスや規制を重視し、小さな調整が繰り返されてきただけである。こうした状況は、無意味な実務、役員の無関心、そして事業継続プログラムと実務者の価値の証明不能という受け入れがたい事態を招き、今も悪化させつつある。

目的:

アダプティブBCは、継続性プランニング業界の伝統的活動の大部分を転換または排除する。この分野とその実務者の意識を、効果のない旧式な「ベスト」プラクティスから引き離し、実証されたプラクティスへと向ける。アダプティブBCは、インシデントや災害の後に起こり得る、組織のブランド、資本、機能、収益に対するダメージを抑制するBC実務者の能力を強化し、実務者をより効果的に支える。

スコープ:

アダプティブBCの原則は、IT災害復旧、緊急事態管理、危機管理、および関連分野に対しても意味を持つ可能性があるが、事業継続の分野を対象とする。その定義から、アダプティブBCのスコープは:

- アダプティブBCをレジリエンス、サステナビリティ、その他のイニシアティブから区別し、
- 専門分野、実務、評価のために境界と指針を確立し、
- 取締役会や役員との持続的な関係の構築の枠組みを提供し、かつ、
- 即時的で、革新的で、有益な改善を可能にする。

原則:

アダプティブBC宣言には10個の原則がある。どの原則も他に優先することはなく、決まった順序もない。全原則がまとめて可能な限り包括的に適用されなければならない。以下、アルファベット順に示す。

要約表

原則	伝統的BC	アダプティブBC
継続的に価値を生み出せ	実務者が、シーケンシャルな方法論に沿って作業を指示し、長いサイクルの最後にドキュメントを提供する	顧客が、ニーズと文化に沿って作業を指示する。実務者は、短周期に、頻繁に、顧客に知らせながら、成果物を提供する
記憶補助のためだけに文書化せよ	実務者が、要求された最終成果物としてドキュメントを作成する	顧客が、取り得る対応を想起する手段としてドキュメントを作成する
時間を目標ではなく制約として用いよ	実務者が、単一の目標復旧時間(RTO)を文書化し、全サービスに適用する	顧客が、各復旧活動を制限するそれぞれの重要な時間的制約だけを予め認識する
組織内の多くの階層に関与させよ	非該当 (実務者は特に役員から関心を引き出すことに努力を傾注する)	実務者が、組織の多くの階層の、多くの人々を意識的に関与させる
テストではなく改善のために演習せよ	監査者が、RTOのターゲット内で復旧する能力をテストするために演習を実施する	関係部署が、対応と復旧の能力を向上させるために演習に参加する
ビジネスを知れ	実務者が、ビジネスに関するデータを収集する	実務者が、組織内の個々の領域の文化と運営を理解するよう努力する
測定しベンチマークせよ	実務者が、文書と演習、日付更新の回数を数える	実務者および顧客が、復旧能力を測定する
指導層から漸進的に指示を得よ	全役員が、プログラムの全スコープを発行前に承認する	個々のリーダーが、都度指示を与える
リスクアセスメントとビジネスインパクト分析を省略せよ	実務者が、計画策定開始の前にRAとBIAの文書を完成させなければならない	非該当
原因ではなく結果に備えよ	専門家が、外部に注目する: 多数の具体的脅威を特定し備える	各部署が、内部に注目する: 場所や人、リソースが活用できない状況への対応と復旧の能力を向上させる

アダプティブBC宣言 著者:

デイヴィッド・リンドステット, PhD 及び マーク・アーマー

www.AdaptiveBCP.org

日本語訳: 高橋哲朗